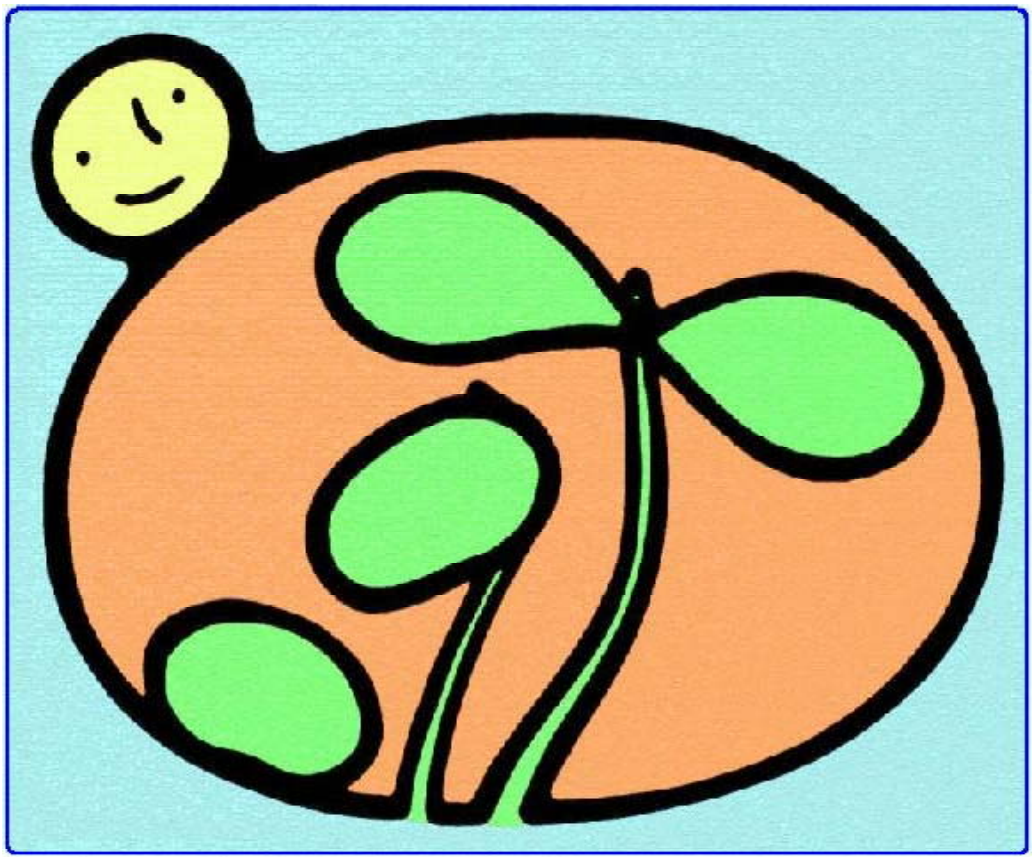
「相談支援ファイル」
作成の手引



平成２２年３月

鹿児島県教育委員会

目　　次

Ⅰ　基本的な考え方
　１　一貫した支援の必要性　1
　２　相談支援ファイルとは　4
　３　相談支援ファイルの内容例等　5
　４　相談支援ファイルの作成・活用　6
Ⅱ　様式と記入のポイント
　１　子どもの情報　7
　(1) プロフィール　8
　(2) 生育歴　9
　(3) 家庭での記録　１１
　２ 子どもとかかわりあった機関から　１２
　(1) 医療・相談機関　１２
　　①　医療・相談機関の記録　１３
　　②　情報提供　１４
　(2) 保育所・幼稚園・療育施設　１５
　　①　保育所・幼稚園・療育施設の記録（一覧表）　１６
　　②　個別の指導計画作成のポイント　１７
　　③　個別の教育支援計画作成のポイント　１８
　　④　移行支援シート作成のポイント　１９
　(3) 学校　２０
　　①　学校の記録（一覧表）　２１
　(4) 福祉・労働　２３
　　①　福祉・労働の記録（一覧表）　２４
　　②　福祉・労働の個別の支援計画作成のポイント　２５
　３　その他　２６
　　○　手帳の取得状況　２７
Ⅲ　幼稚園，小学校，中学校，高等学校における作成例
　１　幼稚園
　　①　幼稚園の個別の指導計画作成例　２９
　　②　幼稚園の個別の教育支援計画作成例　３０
　　③　移行支援シート作成例　３１
　２　小学校
　　①　小学校の個別の指導計画作成例　３２
　　②　小学校の個別の教育支援計画作成例　３３
　　③　移行支援シート作成例　３４
　３　中学校
　　①　中学校の個別の指導計画作成例　３５
　　②　中学校の個別の教育支援計画作成例　３６
　　③　移行支援シート作成例　３７
　４　高等学校
　　①　高等学校の個別の指導計画作成例　３８
　　②　高等学校の個別の教育支援計画作成例　３９
　　③　移行支援シート作成例　４０

Ⅰ　基本的な考え方

１　一貫した支援の必要性

保護者をはじめとする養育関係者が，子どもの何らかの困難さに気付いたとき，そのときから，当該の子どもへの関係機関の支援が始まります。その支援は，乳幼児期から学校卒業後のそれぞれの段階にわたって，教育，福祉，医療，保健，労働などの関係機関が連携して進めることが必要です。

このことは，平成１４年１２月に閣議決定された「障害者基本計画」の中で，以下のように明記されています。

（基本方針）

○　障害のある子ども一人一人のニーズに応じてきめ細かな支援を行うために乳幼児期から学校卒業後まで一貫して計画的に教育や療育を行うとともに，学習障害，注意欠陥多動性障害，自閉症などについて教育的支援を行うなど教育・療育に特別のニーズのある子どもについて適切に対応する。

（施策の基本的方向から一部抜粋）

・　障害のある子どもの発達段階に応じて，関係機関が適切な役割分担の下に，一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の支援計画）を策定して効果的な支援を行う。

・　乳幼児期における家庭の役割の重要性を踏まえた早期対応，学校卒業後の自立や社会参加に向けた適切な支援の必要性にかんがみ，これまで進められてきた教育・療育施策を活用しつつ，障害のある子どもやそれを支える保護者に対する乳幼児期から学校卒業後まで一貫した効果的な相談支援体制の構築を図る。

具体的には，以下のような子どもの各ライフステージにおける様々な支援機関が，情報を共有しながら適切な支援策を検討していくことが重要です。

就学前（乳幼児期）

各市町村等においては，子育て支援に関して，多様なニーズに柔軟に対応していく支援体制づくりが進められています。特に，支援が必要な子どもについては，その障害の状況や程度に応じて，保健センターや保健所，児童デイサービス事業施設や通園事業施設などの療育施設，また，保育所や幼稚園の担当者を中心として，相談や支援を進め，個別の支援計画を作成します。

その際，医療機関やこども総合療育センター，発達障害者支援センターなどの相談機関と連携しながら，成長・発達に応じた支援を検討します。

また，学校への就学ついては，各市町村教育委員会や特別支援学校，県総合教育センターなどにおいて，子どもの状態の理解や就学先でどのような力を身に付けることができるのか

など，いろいろな情報を早めに収集して，継続的に相談を進めることが必要です。

そして，就学時には，移行支援シートを使うなどして，就学前の機関から就学先の学校へ，子どもの支援内容や配慮事項，保護者の願いなどを引き継ぎ，早期から受入準備を行うとともに，継続した支援ができるようにしていくことが重要です。

就学中（学齢期）

小・中学校，高校又は特別支援学校が中心になって，保護者や関係する支援機関とともに個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成します。各学校では，特別支援教育コーディネーターが中心になって校内委員会を組織し，学校内外の医療機関や相談機関の関係者の意見を集約して，実態把握や支援内容などの検討を行い，計画の作成を進めます。その際，医療機関や様々な相談機関は，重要な連携機関です。

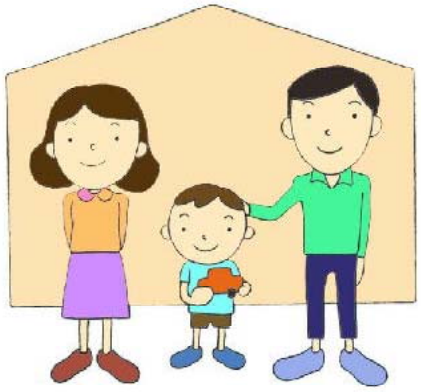
また，小学校段階から中学校，中学校段階から高校へなど，それぞれの移行期においては，進路選択を含めた移行支援が必要です。子どもが将来，どのような社会参加を果たしていくのか，そのために，今，どのような学習が必要なのかなど，長期的な視点をもって検討していくことが大切です。

そして，移行支援シート等を活用して，支援内容等を引き継ぎ，各学校段階における支援をつないでいきます。

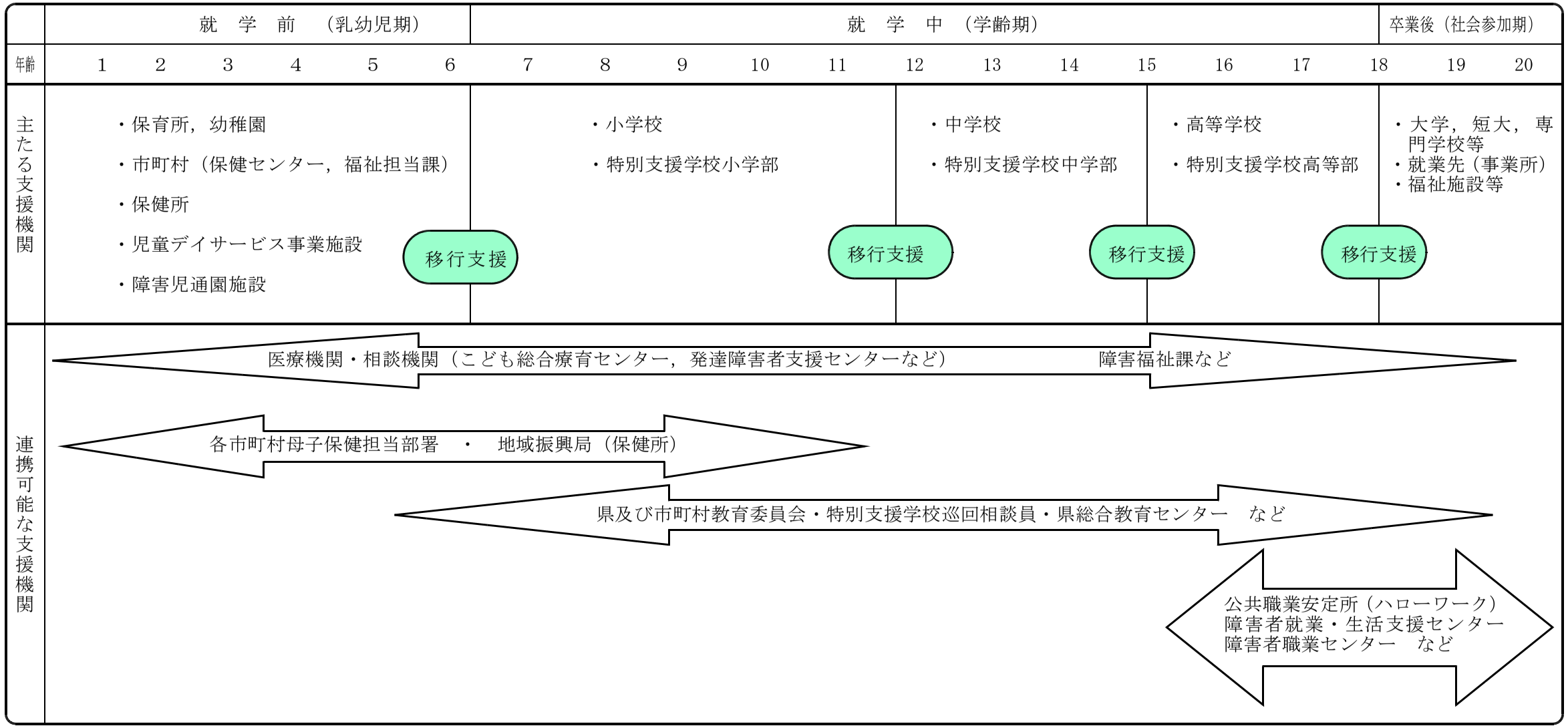
卒業後（社会参加期）

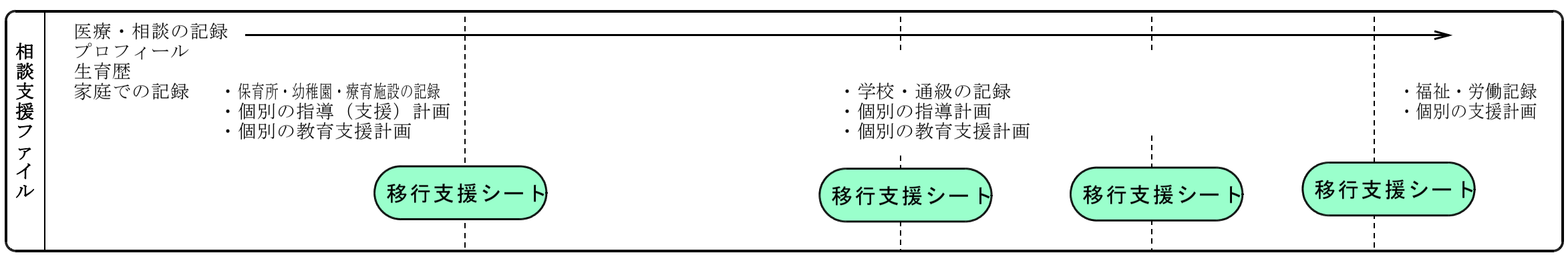
進路先や市町村などが中心になり，福祉や労働機関などと連携を図りながら支援を進めます。就労支援や生活支援など，豊かな社会生活を営むための長期にわたる支援を考えていくことが必要となります。

このような，障害のある子どもや保護者などのニーズにこたえ，成長・発達に応じた一貫性・継続性のある相談支援を行っていくための具体的な連携方策の一つとして，「相談支援ファイル」の作成があります。



ライフステージを支える支援機関と相談支援ファイル





２　相談支援ファイルとは

教育，福祉，医療，保健，労働などの各機関が，それぞれ適切な支援を行うとともに，それらが一貫してつながった支援となるためには，保護者とともに必要な情報を共有することが大切です。

そのためには，共通で活用でき，連携して支援に当たることができるよう，幼児児童生徒の発達や障害の状況，各種の相談支援の内容とそれによる効果，幼児児童生徒や保護者のニーズなどを記録する相談支援のためのファイル「相談支援ファイル」を作成し，保護者が活用できるようにすることが有効です。

１　相談支援ファイルの作成

このファイルは，前述のように，「障害者自立支援法」において，地域の相談支援体制の構築を担うこととされる各市町村が様式等を作成し，幼児児童生徒及び保護者などに配布することが考えられます。（今回，県教育委員会が参考例として示した相談支援ファイルの様式は，その一例として作成しました。）

２　相談支援ファイルの活用

配布された相談支援ファイルは，幼児児童生徒本人及び保護者等が保持・活用します。

(1) 保護者が各種の相談支援を受ける際に，相談支援に当たる関係者に提示することにより，必要な情報を提供します。

(2) 保護者や相談支援に当たる関係者が必要な情報を記入したり，それぞれがもつ情報を添付したり，綴じ込んだりすることもできます。

(3) どのページからでも活用することができます。また，全てのページをもれなく記載しなければならないということはありません。本人の支援に役立つと思われる情報，伝えたいと思われる情報に関する箇所に記載してください。

３　相談支援ファイル活用上の留意点

活用に当たっては，以下の点に御注意ください。

(1) 記載する内容は，大変重要ですので，このファイルは厳重に保管してください。

(2) 関係機関が情報を共有したり，相談に応じた機関が他の機関へと引き継いだりする場合は，本人及び保護者の了解を得るなどし，個人情報の扱いには十分留意してください。

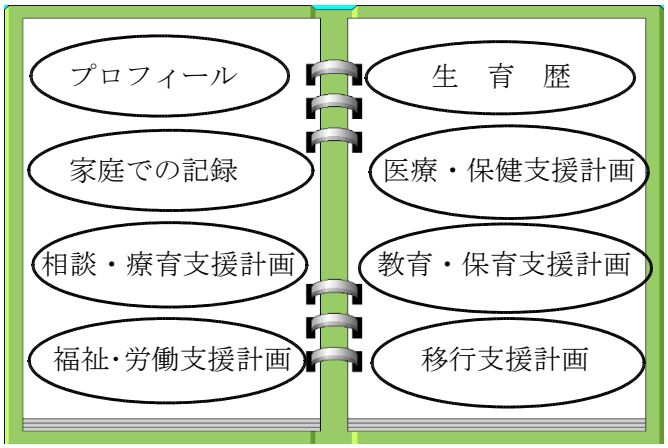


図１　相談支援ファイルの例

３　相談支援ファイルの内容例等

【目　的】

相談支援ファイルは，障害のある幼児児童生徒や保護者へのよりよい支援を目指して作成されます。関係機関の一貫した継続的な支援や円滑な連携のために活用します。

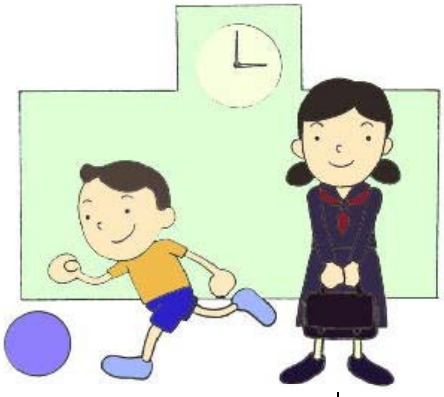
【対象年齢】

年齢にかかわらず，どの時点からでも活用できます。

【内容例】

１　子どもの情報
(1)　プロフィール
(2)　生育歴
(3)　家庭での記録

２　子どもとかかわりあった機関から
(1)　医療・相談機関
　①　医療・相談機関の記録
　②　情報提供
(2)　保育所・幼稚園・療育施設
　①　保育所・幼稚園の記録（一覧表）
　　療育施設の記録（一覧表）
　②　幼稚園・保育所・療育施設の個別の指導計画
　③　幼稚園・保育所・療育施設の個別の教育支援計画
　④　移行支援シート
(3)　学校
　①　学校の記録（一覧表）
　②　学校の個別の指導計画
　③　学校の個別の教育支援計画
　④　移行支援シート
(4) 福祉・労働
　①　福祉・労働の記録（一覧表）
　②　福祉・労働の個別の支援計画



３　その他
○　手帳の取得状況
○　障害に配慮した教育　など

4　相談支援ファイルの作成・活用

具体的な「相談支援ファイル」の配布や活用の基本的な手順としては，以下のようになります。「相談支援ファイル」の配布に当たっては，保護者の障害受容の状態を十分に考慮するとともに，その保管や管理，活用等について，理解を得ておくことが重要です。

①　相談支援ファイルの配布

活用方法・留意事項の確認

市町村の相談支援機関（教育委員会・福祉関係課・保健所・児童相談所など）

↓

支援を必要とする幼児児童生徒とその保護者へ配布

「相談支援ファイル」に記されている情報の保管や管理，活用等は，すべて保護者の責任において扱われることが基本原則。配布に当たっては保護者の障害受容の状況に十分に留意。

②　基本情報の記入

保護者の基本情報記入

相談支援ファイルの個人プロフィールについて，住所，氏名，生育歴など必要な事項を記入。

担任等が現状を記入

主たる支援関係者（例：学校の担任）はファイルに記されている情報を確認後，現在実施している支援内容や方法を検討し，必要事項の記入。

保護者と担任等の協議

保護者と主たる支援関係者が，相談支援ファイルに基づきながら，幼児児童生徒の支援に関与している関係機関の情報を共有。

以降，関係機関に記入を依頼。必要に応じ，支援会議等を設定。

③　関係機関が支援情報を記入

関係者が現状を記入

教育・療育，医療・福祉など，現在，支援に当たっている関係機関が必要箇所を確認し，必要事項を記入。

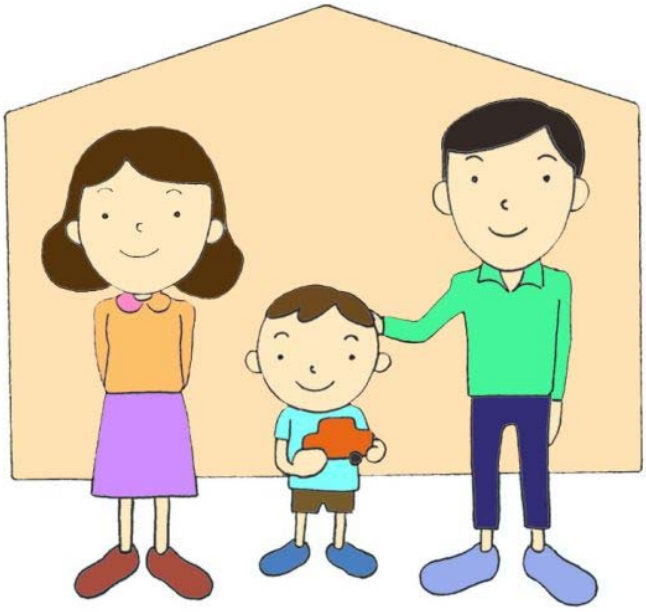
相談支援ファイルを保持・管理し，必要に応じ関係機関に提示しながら活用。

④　相談支援ファイルの本格運用

- 相談支援ファイルについては，保護者が管理。
- 主たる支援機関が保護者とともに，関係機関との連携体制をコーディネート。
- 必要に応じて，関係機関の支援内容等を記入。

Ⅱ　様式と記入のポイント

１　子どもの情報



(1) プロフィール・・・保護者が記入します。

・　名前，住所，家族構成など，このファイルをもらったときに書きます。転居等で修正が必要な場合は，その都度，書きましょう。

(2) 生育歴・・・保護者が記入します。

・　生育歴は，各ライフステージにおける発達の理解や支援内容を検討する際の貴重な情報です。１歳６か月児のころ，２歳児のころなど母子手帳の各発達段階における項目とも関連させてありますので，そのままコピーしたものを添付しても構いません。

(3) 家庭での記録・・・保護者が記入します。

・　家庭でのちょっとしたニュース，出来事，できるようになったことなど，子どもや家族のエピソードを記録しましょう。子どもさんの成長の記録として，大切なページとなることでしょう。

※　このファイルをもらったときに書きましょう。

1　子どもの情報

(1) プロフィール

（平成○○年　○月　現在）

ふりがな	○　○　はなこ	写真をはりましょう
氏　　名	○　○　花　子	
性　　別	女	
生年月日	平成○○年　○月　○日	
愛　　称	はなちゃん	

愛称が変わったとき，住所が変わったときなど，随時，書き込みましょう。

住　　所	〒　○○○　－　○○○○ ○○市　○○町　○丁目　○－○		
緊急連絡先	氏　　名	続　柄	電話・携帯番号
	○　○　○　○	父	０９０－０００－０００
	○　○　○　○	祖母	０９９６－００－０００
※　住所，緊急連絡先などに変更があったら書きましょう。			

家族構成	氏　　名	続　柄	生　年　月　日
	○　○　　○　○	父	昭和○○年　○月　○日
	○　○	母	昭和○○年　○月　○日
	○　○	兄	平成○○年　○月　○日
			年　　月　　日
			年　　月　　日
			年　　月　　日

(2) 生 育 歴

妊娠中の状況	特記すべきこと	(1) 異常なし (2) 異常あり 切迫流産　妊娠中毒(妊娠高血圧症候群)　前置胎盤　貧血 その他 (　　)
出産のときや生後1か月内のお母さんと赤ちゃんの状況	在胎週数	妊娠　４０　週　９　日　出生児体重 (　３２３４　)g
	出産の状態	自然分娩　鉗子分娩　吸引分娩　帝王切開　骨盤位 微弱陣痛　前早期破水　その他 (　　)
	その他特記すべきこと	逆子で，生まれるまでに○時間かかった。 黄疸症状あり。

気付いたことは，何でも書き入れておきましょう。

○　1歳児までの様子

獲得する年齢は，大きな目安です。子どもさんによって，個人差があります。
お子さんができるようになった年齢を書き入れましょう。

獲得する年齢の目安	主　な　発　達　経　過	できるようになった年齢
３～４か月ごろ	首がすわる	歳　４　か月
	あやすと笑う	歳　２　か月
６～７か月ごろ	寝返りをする	歳　６　か月
	おすわりをする	歳　７　か月
	そばにあるおもちゃに手をのばす	歳　７　か月
	人見知りをする	歳　８　か月
９～１０か月ごろ	はいはいをする	歳　９　か月
	つかまり立ちをする	歳　１０　か月
	欲しいものがあるとき，声を出して大人の注意をひく	歳　　か月
	後追いをする	歳　　か月
１歳ごろ	一人で立つ	歳　　か月
	ものなどを相手に渡す	歳　　か月
	絵本を見る。	歳　　か月

○　育児の上で心配なこと，医師にかかった病気，記録として残しておきたいこと，感想など

(記入例)
- 首のすわりが遅かったので心配。
- 便がゆるい（水様便）が，回数が少ないのは大丈夫と言われたのでほっとした。
- 小さいものを拾って，何でも口に持って行くので心配。

○　1歳6か月児のころの様子

（母子手帳の1歳6か月児健康診査の結果をコピーして貼付してもかまいません）

（平成○○年○月○日）

体　　重	９．７　kg	身　　長	８０．０　cm

○　ひとりでじょうずに歩きますか。　　(はい)　いいえ

（ひとり歩きができるようになった時：　１歳　３　か月ごろ　）

○　ママ，ブーブーなど意味のあることばをいくつか話しますか。　(はい)　いいえ

○　自分でコップを持って水を飲めますか。　(はい)　いいえ

○　哺乳瓶を使っていますか。　(いいえ)　はい

○　極端にまぶしがったり，目の動きがおかしいのではないかと気になりますか。

(いいえ)　はい

○　うしろから名前を呼んだとき，振り向きますか。　はい　(いいえ)

○　どんな遊びが好きですか。

- 積み木を積んでは崩して遊ぶ。
- おいかけっこ
- 滑り台

○　育児の上で心配なこと，医師にかかった病気，記録として残しておきたいこと，感想など

- ぜんそく気味で，ゼコゼコ音が聞こえることがよくある。
- 決まった野菜しか食べない。特に緑黄色野菜はほとんど食べずに出してしまう。

気付いたことを具体的に記入しておきましょう。
２歳児，３歳児のころの様子なども，同様に書きましょう。

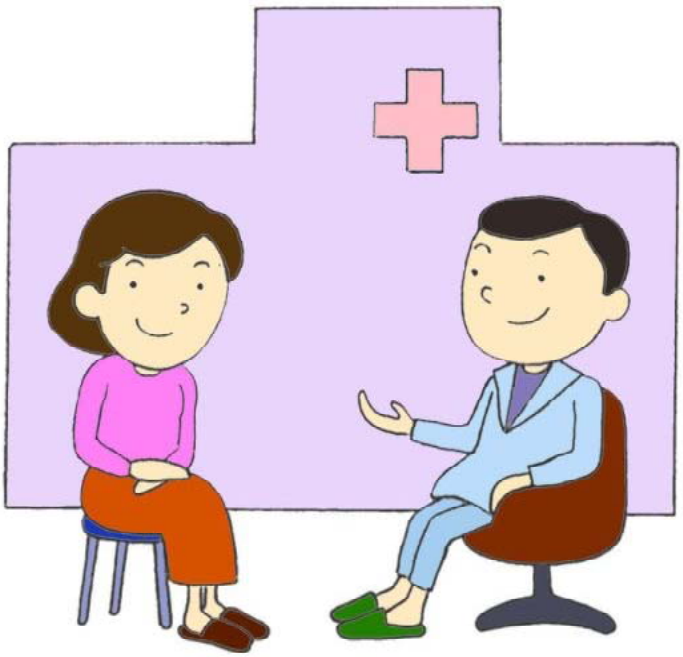
(3) 家庭での記録

※　家庭であったことを記入するために，このシートを準備しました。ちょっとしたニュース，出来事，できるようになったことなどを書いてみてください。プロフィールに付け加えて，お子さんの愛称が変わったり，好きな食べ物や興味のある遊具などの好みが変わったりしたときに，ここに書いておくのも，いいですね。

（No.１）

年　月　日	年齢	ニュース・こんなことあったよ・できたよ	家族のかかわり・思い・感じたこと等
○．○．○	０	深夜１時３１分に誕生。	お父さんは落ち着かないで廊下をうろうろしていました。嬉しかったみたい。
○．○．○	１か月	お宮参り。	おばあちゃんに買ってもらった着物を着ておりこうにしていました。
○．○．○	７か月	下の歯が２本はえた。	虫歯にならないように気をつけよう。
○．○．○	３歳７か月	ピアノの発表会に出る。	物怖じしないで，人前で発表できた。
○．○．○	５歳１か月	混合性乱視と診断される。 裸眼，矯正視力共に０．７だったので，メガネを作る。	３歳児健診で分かっていたら，視力の回復の可能性があったが，５歳では難しいと言われ，ショック。

２　子どもとかかわりあった機関から
（１）　医療・相談機関



① 医療・相談機関の記録・・・保護者が記入します。

・ 病院の受診の際や保健センター，こども総合療育センター，発達障害者支援センター，大学，療育施設，幼稚園や保育所，学校など，いろいろな機関に相談に行ったときに，期日や主な相談等の内容，アドバイスなどを記録します。

② 情報提供

・ 診断書や病気や治療にかかわる資料，相談の際の資料など，医療・相談機関から情報提供されたものを添付して保管しましょう。

①　医療・相談機関の記録

（医療・相談機関等で行った内容等について，保護者が記入してください。）

機関名 医療　(相談機関)	○○センター
連絡先（電話番号）	－　　－
受 診 等 の 期 日	平成　○○年　　○月　　○日
担 当 者 （ 職 種 ）	○○　○○　　（医　師） △△　△△　　（臨床心理士）
主　な　内　容	・　「３歳が近いのに，『まんま』『だこ（だっこ）』などいくつかの言葉しか話をしない。保育所の友達とも遊べず一人で遊んでいる」ことを相談した。 ・　医師の診察と臨床心理士の検査をしてもらった。検査から，やはり言葉等の遅れがみられ，○○○と診断された。（検査結果は，後ろに貼付）

相談内容とその結果等について，何でも書き入れておきましょう。

機関名 医療　相談機関	
連絡先（電話番号）	－　　－
受 診 等 の 期 日	年　　月　　日
担 当 者 （ 職 種 ）	（　　） （　　）
主　な　内　容	

機関名 医療　相談機関	
連絡先（電話番号）	－　　－
受 診 等 の 期 日	年　　月　　日
担 当 者 （ 職 種 ）	（　　） （　　）
主　な　内　容	

②　*情報提供*

※　医療・相談機関から出された資料等を貼付しましょう。

相 談 し た 期 日	平成　　年　　月　　日　　曜日
医療・相談機関名	

- 医療・相談機関で提供されたお子さんの情報がありましたら，貼付あるいは一緒に綴じておきましょう。
- 資料がなかった場合にも，医師や相談員などから聞いたお子さんの情報や今後に向けたアドバイスなどがありましたら，記入しておきましょう。
- 合わせて手帳が交付されたり，いろいろな機関を紹介されたりした場合も，それぞれ記入する欄がありますので確認して早めに記入しましょう。

（２）　保育所・幼稚園・療育施設

① 保育所・幼稚園の記録（一覧表）・・・保護者が記入します。
- 通園する保育所・幼稚園の名前や担任名などを，年度ごとに記録します。

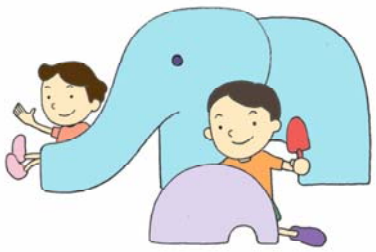
療育施設の記録（一覧表）
- 通園する療育施設の名前や担任名などを，年度ごとに記録します。
  保育所や幼稚園と療育施設に並行して通園している場合は，「保育所・幼稚園の記録」と「療育施設の記録」の両方に記入しましょう。

② 保育所・幼稚園・療育施設の個別の指導計画・・・支援機関が記入します。
- 個別の指導計画は，各保育所・幼稚園・療育施設の担任等子どもの支援にかかわる教員が中心になって作成します。作成や活用に当たっては，保護者との連携が必要であり，また，支援の関係者で構成される園内委員会等で多面的に検討していくことが重要です。
- 各保育所・幼稚園・療育施設で作成する個別の指導計画を綴じ込んでも構いません。

③ 保育所・幼稚園・療育施設の個別の教育支援計画・・・支援機関が記入します。
- 個別の教育支援計画は，保育所・幼稚園・療育施設の担任等が中心となって，子どもの支援にかかわる園内外の関係機関と協力して取り組む具体的内容を明記します。
- 各保育所・幼稚園・療育施設で作成する個別の教育支援計画を綴じ込んでも構いません。

※　保育所・幼稚園と療育施設に並行して通園している場合は，両方の機関における指導計画を作成しましょう。なお，個別の教育支援計画は，保育所・幼稚園または療育施設のいずれか主となる機関が中心となって作成してください。

④ 移行支援シート・・・保護者及び支援機関が記入します。
- 保育所・幼稚園等から，小学校・特別支援学校小学部への就学に当たって，子どもさんにこれまで行ってきた支援策等をコンパクトにまとめ，焦点化して就学先の学校へ引き継ぎ，早期からの受入準備等を進めるために活用します。
- 「就学後の学校生活に関する要望・期待など」の欄は，保護者が記入し，それ以外は，各保育所・幼稚園等の担任が中心となって作成します。



①　保育所・幼稚園の記録（一覧表）

※　保護者が記入します。

保育所 ・ 幼稚園名	連絡先（電話）	所属年度	組　名	担 任 名
○○幼稚園 (○○年○○月○○日入所・園)	○○○○－ ○○－○○○○	○○　年度	年長・○○ 組	○○　○○
(　年　月　日入所・園)		年度	組	
(　年　月　日入所・園)		年度	組	
(　年　月　日入所・園)		年度	組	
(　年　月　日入所・園)		年度	組	
(　年　月　日入所・園)		年度	組	
(　年　月　日入所・園)		年度	組	

○　療育施設の記録（一覧表）

※　保育所や幼稚園などと並行して通園している場合は，①の記入と併せて記入してください。
その場合，「並行通園　有り」に○をしてください。

並行通園	療 育 施 設 名	連絡先（電話）	所属年度	回　数	担 任 名
(有り)	○○○園 (○○年○○月○○日通所開始)	○○○○－ ○○－○○○○	○○ 年度	毎　日 週２回 月　回	○○　○○
有り	(　年　月　日通所開始)		年度	毎　日 週　回 月　回	
有り	(　年　月　日通所開始)		年度	毎　日 週　回 月　回	

②　個別の指導計画作成のポイント　（下記の項目は，「保育所・幼稚園・療育施設」の様式で示しています。学校段階でも参考にしてください。）

※　保育所・幼稚園・療育施設・学校などで記入してください。また，各園・学校で独自に作成している個別の指導計画がありましたら，綴じ込んでください。

支援の期間　　年　　月　　日　～　　年　　月　　日　　記入者

園名（連絡先）		組		氏　名		担任名	
本人・保護者の願い				担任の願い			
長期目標	（１年後）						

本人や保護者の願いを家庭訪問や教育相談など，いろいろな機会を通じて把握します。

状態像や本人や保護者の願い，担任の願いなどをもとに，１年間で達成できる目標を設定します。１～２点の目標にします。

項　目		状　態　像	短期目標（学期ごと）	支援・指導の内容・具体的な手だて	評価	本人の変容・評価
健康・身体機能　面	①健康面に関する配慮 ②見え　③聞こえ ④姿勢保持 ⑤移動　⑥手指の動き ⑦その他					
身辺処理・生活　面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥その他					
社会性・行動面	①指示や話の内容理解 ②意思の伝達 ③人とのかかわり ④遊び　⑤集団行動 ⑥決まりの理解や遂行 ⑦感情のコントロール ⑧危険回避・危険予知 ⑨その他					
学習面	①理解（上下・前後・左右） ②文字への興味・関心 ③平仮名（自分の名前程度）の読み ④平仮名（自分の名前程度）の書き ⑤数えることへの興味・関心 ⑥描くことへの興味・関心 ⑦その他					

幼児児童生徒の生活の様子，前担任や保護者からの聞き取りなどをもとに，それぞれの状態像を記入します。その際，該当する項目番号を，先頭につけます。

状態像や長期目標をもとに，学期ごとに短期目標を具体的に記入します。学期に１～２が適当な数です。
【○学期】と最初に入れて書き出します。
学期途中で短期目標が高すぎた場合は，修正してもかまいません。（学期の設定がない場合は，適切な期間を設けるとよいでしょう。　例５～８月）

短期目標ごとに，具体的な内容や手だてを記入します。誰がこれを見ても，指導できるようなスタンスで書くことが大切です。

短期目標が達成されたかどうか，下の３段階で評価します。評価規準を設定しておく必要があります。

短期目標ごとの変容や特記すべき評価の内容があれば，記入します。「△」の場合は，次学期もしくは次年度に継続すべき事柄について記入します。

今後に向けて（引継事項）		保護者記入欄（支援終了時感想）	

３学期終了時に，特に引き継いでおく必要がある事項を記入します。

支援終了時に，保護者が記入します。

※　評価は，十分達成した◎　　達成した○　　努力が必要△

③　*個別の教育支援計画作成のポイント*　（下記の項目は，「保育所・幼稚園・療育施設」の様式で示しています。学校段階でも参考にしてください。）

※　支援機関が多い場合は，複数ページ使って作成してください。

幼児児童生徒氏名		組・学年等	
保護者氏名		担任氏名	
記入者氏名			

まず中央の二重線の部分を作成します。その後，関係する他の支援機関も記入します。

将来に向けての願い・現在の生活の願い	
本　人	本人や保護者の願いを家庭訪問や教育相談など，いろいろな機会を通じて把握します。
保護者	
支　援　目　標	
長期目標（３年後）	長期目標としては３年後，短期目標としては１年後を目安として，本人や保護者の願いや支援者の願いを基に，目標を設定します。
短期目標（１年後）	

次年度への引継
１年終了した時点で，次年度も継続して支援してほしいことや留意事項について記入します。

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

支援機関	家庭 支援者：
支援内容	
評価	

家庭はその子にとって，大切な支援機関の一つです。支援に当た家族を記入します。

家庭で，園や学校などと連携して短期目標達成のために取り組めることについて具体的に記入します。

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

所属機関	○○○○ 担当者：
支援内容	
評価	

在籍する園や学校名と担任，担当者名を記入します。

担当者，学級担任，教科担任，支援員など支援にかかわる人が，どのように支援しているか大まかに書く。詳細は，個別の指導計画に記入する。

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

支援内容についての１年後の変化を記入します。各関係機関における評価についても，保護者等を通じて収集するようにします。

- 中心となる支援機関を取り巻く複数の枠に，対象幼児児童生徒の支援にかかわる通園施設や病院，保健所などの支援機関を記入します。
- 支援内容については，支援会議等を開いて，検討・確認する機会を設定する場合もあれば，保護者の協力を得て，支援内容等の情報収集を行うことも考えられます。各機関が，どのような役割で，どのような支援ができるのか，その時々で整理したり，確認したりしておくことが大切です。

④　移行支援シート作成のポイント

ここでは，幼稚園から小学校に就学する子どもの様式に基づいて説明します。中学校・高等学校への就学・進学など他の移行期における作成に際しても参考にしてください。

1　現在行っている主な支援の内容　〈幼稚園・保育所等 → 小学校・特別支援学校（小学部）〉

※　各項目について，子どもの発達の様子や支援の状態から支援度（支援の必要度）を３段階で評価します。〇ページの資料（実際にはシートの裏面になる）に示した各項目の観点を参考にして記入してください。

(1) 資料の観点例を参考に各項目について，支援度を記入してください。
◎：配慮・支援の必要はない。
〇：何らかの配慮・支援があればできる。
△：多くの配慮・支援を要する。

(2) 〇又は△の項目について，これまで行ってきた配慮や支援を具体的に記入してください。

	項　目	支援度	主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	◎	※　〇又は△の項目については，これまで行ってきた主な配慮や支援の内容を具体的に記述します。その際，できるだけ「〇〇できない」状態の記入ではなく「〇〇することによってできる」という立場で子どもの様子をとらえ，情報を伝えていくようにしましょう。
	② 見え	◎	
	③ 聞こえ	◎	
	④ 姿勢保持	◎	
	⑤ 移動	◎	
	⑥ 手指の動き	◎	
	⑦ その他（　　）		
身辺処理・生活	① 食事	〇	①　偏食の傾向があり，食べることに集中できないところがあるが，教師が近くに座り，言葉掛けすると落ち着いて食事に臨むことができ，苦手なものも少しずつ食べようとする。
	② 排せつ	◎	
	③ 衣服の着脱	〇	
	④ 片付け	◎	
	⑤ 用具の使用・活用	〇	
	⑥ その他（スケジュールの理解や変更）	〇	⑥　一日の流れや活動内容を絵カードで示し，説明することで，活動の切り替えがスムーズにできる。
社会性・行動	① 指示や話の内容理解	〇	③⑦　絵カードなどで視覚的に相手の気持ちを伝えると理解しやすい。また，教師が「お友達はどんな気持ちかな？」と言葉掛けすることで，自分で考えられるようになってきている。
	② 意思の伝達	〇	
	③ 人とのかかわり	〇	
	④ 遊び	〇	
	⑤ 集団行動	〇	
	⑥ 決まりの理解や遂行	〇	
	⑦ 感情のコントロール	〇	
	⑧ 危険回避・危険予知	〇	
	⑨ その他（　　）		
学習への準備	① 理解（上下・前後・左右など）	〇	※　最初に，関連する項目の番号を表記し，その後に具体的な配慮や支援の内容を記入します。「その他」の欄は，裏面の資料を参考に（　　）に項目を記入してください。
	② 文字への興味・関心	〇	
	③ 平仮名（自分の名前程度）の読み	◎	
	④ 平仮名（自分の名前程度）の書き	△	④　書くことへの興味も出てきている。「名前はどうだっけ？」と教師に求めてくるので，「縦」「横」など言葉かけしながら教師が手を添えて書くようにしている。
	⑤ 数えることへの興味・関心	〇	
	⑥ 描くことへの興味・関心	◎	
	⑦ その他（　　）		

	項　目		主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
興味・関心等	得意なこと 好きな遊び	①粘土や砂場遊びなどイメージを形にすること ②手伝いや当番活動	①　教師も一緒に遊び，イメージを共有できるようにした。 ②　達成できたときは，特に多くの言葉を掛け，褒めることを大切にした。
	苦手なこと 嫌いな活動	①鉄棒やプール ②集中して取り組むこと	②　鍵盤ハーモニカの練習等，長時間にならないように〇分程度と決めて取り組む工夫をした。また，活動の前後に好きなことができる時間を十分とるようにした。

※　子どもの生活全般をみて「得意なこと，好きな遊び」「苦手なこと，嫌いな活動」などを書きます。そのことが，就学後の支援の大きな手掛かりになります。

2　就学先の学校へ

(1) 就学後も継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※　これまで大事にしてきた指導内容・方法の工夫（環境や働き掛けの工夫，支援のこつ，情緒的に不安定になったときの対応など），これまでの指導で伸びてきたこと，これからも伸ばしてほしいこと，そのための手だてや配慮事項など

・　登園時に，一日の流れや活動内容などを絵カードで具体的に伝えたり，片付けの時間などを事前に伝えたりすることで，活動の切り替えがスムーズにいく。
・　イライラして席に着けなかったり，声を出したりなど情緒的に不安定なときは，静かな場所に移動し，落ち着いて話を聞くようにした。本人の思いをしっかり受け止め，「〇〇が嫌だったんだね」と肯定的な言葉で話すように配慮すると教師の話も聞き入れやすい。

※　就学後の生活を想定して，特に必要になる支援・継続してほしい内容などをまとめます。「１　現在行っている主な支援の内容」の中で述べたことを更に具体的に伝えたり，補足したりすることもあります。

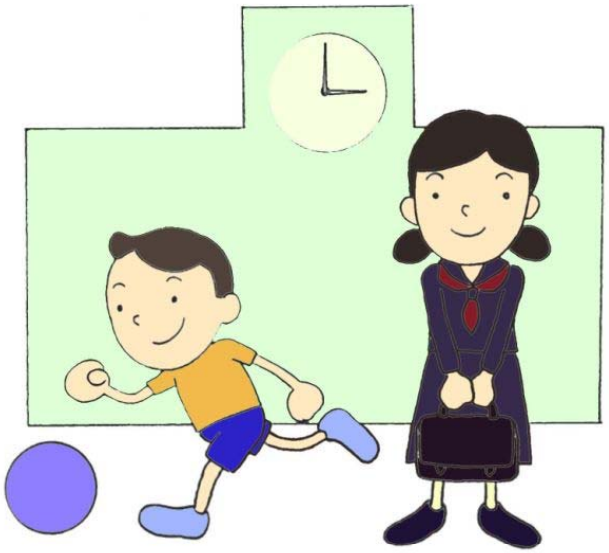
(2) 就学後の学校生活に関する要望・期待など（保護者記入欄）

・　早く新しい先生や友達に慣れて，みんなと一緒にいろいろなことができるようになってほしい。

このシートの内容を就学先や関係する支援機関と共有することに同意します。
平成〇〇年　〇月　〇日
名前（保護者）　〇〇　〇〇

※　移行支援シートを作成したり，シートを就学先に引継いだりするには，保護者の同意が必要です。また，実態に応じて本人の進路希望や将来の夢などを記入することも大切になります。

（３）　学　校



① 学校の記録（一覧表）・・・保護者が記入します。
- 通学する学校の名前や学年，担任名などを，年度ごとに記録します。ことばの教室やきこえの教室など通級による指導を受ける場合は，両方に記入しましょう。

② 学校の個別の指導計画・・・支援機関が記入します。
- 個別の指導計画は，各学校の担任等子どもの支援にかかわる教員が中心になって作成します。作成や活用に当たっては，保護者との連携が必要であり，また，支援の関係者で構成される校内委員会等で多面的に検討していくことが重要です。
- 各学校で作成する個別の指導計画を綴じ込んでも構いません。

③ 学校の個別の教育支援計画・・支援機関が記入します。
- 個別の教育支援計画は，各学校の担任等が中心となって，子どもの支援にかかわる校内外の関係機関と協力して取り組む具体的内容を明記します。
- 各学校で作成する個別の教育支援計画を綴じ込んでも構いません。

④ 移行支援シート・・・本人・保護者及び支援機関が記入します。
- 小学校（特別支援学校小学部）から中学校（特別支援学校中学部），中学校（特別支援学校中学部）から高等学校（特別支援学校高等部）等への就学，または高等学校・特別支援学校高等部から就労するに当たって，子どもにこれまで行ってきた支援策等をコンパクトにまとめ，焦点化して就学先や進学先，就労先へ引き継ぎ，早期から受入準備等を進めるために活用します。
- 「就学後の学校生活に関する要望・期待など」の欄等は，本人・保護者が記入し，それ以外は，各学校の担任が中心となって作成します。

①　学校の記録（一覧表）

※　保護者が記入します。

小学校・特別支援学校（小学部）

年　度	学　校　名	年　　組	担　任　名
○○年度	○○市立　○○　　学校	1　　年　○　　組 （通常の学級・特別支援学級）	○○　　○○ ○○　　○○
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	

中学校・特別支援学校（中学部）

年　度	学　校　名	年　　組	担　任　名
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	
	学校	年　　組 （通常の学級・特別支援学級）	

通級指導教室

年　度	学　校　名	学　級　名	担　当　者　名
○○年度	○○市立　△△　小学校	ことばの教室	○○　　○○
	学校		
	学校		
	学校		

高等学校・特別支援学校（高等部）

年　度	学　校　名	年　　組	担　任　名
	学校 （　　科）	年　　組	
	学校 （　　科）	年　　組	
	学校 （　　科）	年　　組	
	学校 （　　科）	年　　組	

専門学校・短大・大学・大学院

年　度	学　校　名	学部・学科など	備　考
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退
	高校・専門学校・短大 大学・大学院		卒業・中退

（４）　福祉・労働

① 福祉・労働の記録（一覧表）・・・本人及び保護者が記入します。

・ 就労先，作業所や施設の通所・入所の状況を記入します。アルバイトや自営業手伝いなどの経験も記入しましょう。

② 福祉・労働の個別の支援計画・・・支援機関が記入します。

・ 各事業所や福祉施設の担当など支援にかかわる職員が中心になって作成します。作成や活用に当たっては，本人及び保護者の理解が必要であり，また，支援の関係者間で多面的に検討していくことが重要です。

・ 各事業所や福祉施設で作成する個別の支援計画を綴じ込んでも構いません。

①　福祉・労働の記録（一覧表）

○　就労の記録

（アルバイトや自営業手伝いなど，経験のあるものを記入しましょう。）

期　　間	勤務先名	連絡先（電話）	勤務時間	仕事内容
○○年　○月 ～ ○○年　○月	○○食品	○○○○－ ○○－○○○○	８：３０ ～ １７：００	・　食品の詰め合わせ ・　箱折り ・　運搬助手
年　　月 ～ 年　　月			： ～ ：	
年　　月 ～ 年　　月			： ～ ：	
年　　月 ～ 年　　月			： ～ ：	

○　福祉的就労の記録

（作業所，施設等の通所等の状況を記入しましょう。）

期　　間	作業所名・施設名	連絡先（電話）	回　数	仕事内容
△△年　△月 ～ △△年　△月	○○作業所	○○○○－ ○○－○○○○	（毎　日） 週　　回 入　所	・　パン作り ・　パンの販売
年　　月 ～ 年　　月			毎　日 週　　回 入　所	
年　　月 ～ 年　　月			毎　日 週　　回 入　所	
年　　月 ～ 年　　月			毎　日 週　　回 入　所	

②　福祉・労働の個別の支援計画作成のポイント

※　福祉施設や就労先で記入していただけるとありがたいです。また，独自に作成している個別の支援計画等がありましたら，綴じ込んでください。

記入者　○○　○○

機関・職場名	○○食品	連絡先	○○○市　○○○町　○○－○
担当者名	○○　○○		

直接，福祉施設での生活及び就労先の業務内容にかかわる担当者及びジョブコーチ的な方も記入しておくとよいでしょう。

支援の期間	○○ 年　○○ 月 ○○ 日　～　年　月　日

項目		状態像
健康・身体機能面	①健康面に関する配慮 ②視覚　③聴覚 ④姿勢保持　⑤移動 ⑥手指の動き　⑦その他	
身辺処理・生活面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱　④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥役割　⑦金銭　⑧その他	
社会性・行動面	①指示や話の理解　②意思の伝達 ③集団行動 ④決まりの理解や遂行 ⑤対人関係 ⑥感情のコントロール ⑦危険回避・危険予知　⑧その他	
業務・作業内容面	①集中力　②持続力 ③巧緻性　④読む ⑤書く　⑥計算する ⑦その他	

対象者の生活の様子，前担当者や保護者からの聞き取りなどをもとに，それぞれの状態像を記入します。その際，該当する項目番号を，先頭につけます。

本人の願い 保護者の願い	
担当者の願い	
長期目標	

本人や保護者の願いなど，年度始め，生活環境や業務内容が変わったときなど，機会をとらえて把握します。

状態像や本人や保護者の願い，担当者の願いなどをもとに，１年後を目安に達成できる目標を設定します。

短期目標	支援の内容・具体的な手だて	評価	本人の変容・評価

状態像や長期目標をもとに，３か月，半年など期間を決めて，短期的な目標を具体的に設定します。

短期目標ごとに，具体的な内容や手だてを記入します。第３者がこれを見て，指導できるようなスタンスで書くことが大切です。

短期目標が達成されたかどうか，下の３段階で評価します。また，短期目標ごとの変容や特記すべき評価の内容があれば記入します。

今後に向けて（引継事項）	
保護者記入欄	

長期目標評価時に，特に引き継いでおく必要がある事項を記入します。

長期目標評価時に，保護者が記入します。

※　評価は，十分達成した◎　達成した○　努力が必要△

３　その他

○　手帳の取得状況

・　療育手帳や身体障害者手帳，精神障害者保健福祉手帳など，様々な手帳の取得，更新の際に記入します。

○　障害に配慮した教育

○ 手帳の取得状況

手帳の種類	有効期限・等級等	診察機関・診断名
療育手帳	手帳交付日 平成　○○年　　○月　　○日 段階（　Ａ－２　）	○○病院 知的障害
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
身体障害者手帳	手帳交付日 平成　○○年　　○月　○日 等級（　１種　　２級）	○○病院 感音性難聴
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
精神障害者保健福祉手帳	手帳交付日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	

	手当・年金	有効期限・等級等	診察機関
二十歳未満	特別児童扶養手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	障害児福祉手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
二十歳以上	特別障害者手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	障害者基礎年金	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	その他	承認された日・更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		承認された日・更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	

３　その他

○　手帳の取得状況

・　療育手帳や身体障害者手帳，精神障害者保健福祉手帳など，様々な手帳の取得，更新の際に記入します。

○　障害に配慮した教育

○ 手帳の取得状況

手帳の種類	有効期限・等級等	診察機関・診断名
療育手帳	手帳交付日 平成　○○年　　○月　　○日 段階（　Ａ－２　）	○○病院 知的障害
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 段階（　　）	
身体障害者手帳	手帳交付日 平成　○○年　　○月　○日 等級（　１種　　２級）	○○病院 感音性難聴
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
精神障害者保健福祉手帳	手帳交付日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	
	等級変更日 平成　　年　　月　　日 等級（　　級）	

	手当・年金	有効期限・等級等	診察機関
二十歳未満	特別児童扶養手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	障害児福祉手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
二十歳以上	特別障害者手当	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	障害者基礎年金	承認された日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
	その他	承認された日・更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	
		承認された日・更新月日 平成　年　月　日から 平成　年　月　日まで	

Ⅲ　幼稚園，小学校，中学校，高等学校における作成例

※　個別の指導計画及び個別の教育支援計画は，１学期終了時点での作成例です。

１　幼稚園
①　個別の指導計画
②　個別の教育支援計画
③　移行支援シート

２　小学校
①　個別の指導計画
②　個別の教育支援計画
③　移行支援シート

３　中学校
①　個別の指導計画
②　個別の教育支援計画
③　移行支援シート

４　高等学校
①　個別の指導計画
②　個別の教育支援計画
③　移行支援シート

①　幼稚園の個別の指導計画作成例

※　園で記入してください。また，各園で独自に作成している個別の指導計画がありましたら，綴じ込んでください。

支援の期間　○○年　○○月　○○日　　～　　○○年　○○月　○○日　　記入者　　○○　○○

園名（連絡先）	○○幼稚園	組	年長・ゆり組	氏　名	○○　○○	担任名	○○　○○

本人・保護者の願い	・　友達と仲良く遊べるようになってほしい。 ・　文字に興味をもってほしい。	担任の願い	・　新しい環境に早く慣れて，友達とのかかわりをたくさんもつ中で，様々なことを経験してほしい。 ・　集団生活の中での自分の役割を達成すること等を通して，自己肯定感をもってほしい。

長期目標　（１年後）
・　園生活に必要な簡単なルールを守って友達と遊ぶことができる。　・　自分から友達を遊びに誘うことができる。

項　目		状　態　像	短期目標（学期ごと）	支援・指導の内容・具体的な手立て	評価	本人の変容・評価
身辺処理・生活面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥その他	①　偏食傾向があり，食事に集中できず離席することが多い。 ⑥　活動の切り換えが難しい。	【１学期】 ①　食事が終わるまで座っていることができる。 ⑥　教師と一緒に園の一日の生活を確認することができる。	①　教師が近くに座り，「恐竜も食べていたんだよ」等食事に興味がもてるような会話をするようにする。 ⑥　園の一日の流れを，絵カードで示しながら確認する。	○ ◎	①　食事中は，落ち着いて座っていられるようになった。会話の中で，食べ物にも興味をもち，少しずつ食べようとするようになってきた。 ⑥　教師と絵カードで確認することを楽しみに待つ様子が見られた。
社会性・行動面	①指示や話の内容理解 ②意思の伝達 ③人とのかかわり ④遊び　⑤集団行動 ⑥決まりの理解や遂行 ⑦感情のコントロール ⑧危険回避・危険予知 ⑨その他	③④　一人遊びが多い。 ③⑥　場の雰囲気や相手の気持ちを察することが困難。 ⑥⑦　自分の思いを達成できなかったときの感情のコントロールが難しい。	【１学期】 ③④ 砂場で友達と一緒に山を作ったり，自転車遊びで，自分の後ろに友達を乗せてあげたりする。 ⑥⑦ ブランコや自転車を，交替で使ったり，順番を守ったりする。 ⑥⑦　砂場の水道を順番で使う。	③④　教師も遊びに入り思いを共有したりお互いの気持ちを代弁したり，気持ちを視覚的に提示したりする。 ⑥⑦　友達とトラブルが起こる前に「順番を守ります」等肯定的な言葉を掛ける。 ⑥⑦　順番を守ることができている場面では，大いにほめる。	◎ △ △	③④　気の合う友達ができ，遊びの中での会話を楽しんだり，冗談を言って笑いあったりする姿が見られるようになった。 ⑥⑦　衝動的な動きが多く見られ，友達に強い態度で向かってしまうことがしばしばある。
学習への準備	①理解（上下・前後・左右） ②文字への興味・関心 ③平仮名（自分の名前程度）の読み ④平仮名（自分の名前程度）の書き ⑤数えることへの興味・関心 ⑥描くことへの興味・関心 ⑦その他	⑥　想像性が豊かで，粘土遊びや砂場，工作など，自分のイメージを形にすることは得意。 ②　恐竜に興味があり，名前や特徴などを覚えている。 ②　絵本等，一定の時間集中して話を聞くことは難しい。 ②　文字への興味・関心はほとんどない。	【１学期】 ②　恐竜が出てくる絵本を教師と一緒に見たり，恐竜の名前を一緒に読んだりすることで，文字への興味・関心をもつ。	②　本児の興味のある絵本を取り上げ，１対１で絵本の読み聞かせをする時間を設定するようにする。	○	②　自ら絵本を手にして，教師に「読んで」と持って来るようになった。全体への読み聞かせでは，集中できず発言したり，離席したりしてしまうが，１対１のときは聞けるようになってきた。

今後に向けて（引継事項）		保護者記入欄（支援終了時感想）	

※　評価は，十分達成した◎　　達成した○　　努力が必要△

②　幼稚園の個別の教育支援計画作成例

※　支援機関が多い場合は，複数ページ使って作成してください。

幼 児 氏 名	○○ ○○	組	年長・ゆり
保 護 者 氏 名	○○ ○○	担任氏名	○○ ○○
記 入 者 氏 名	○○ ○○		

将来に向けての願い・現在の生活の願い	
本　人	
保護者	・　友達と仲良く遊べるようになってほしい。 ・　文字に興味をもってほしい。
支　援　目　標	
長期目標（３年後）	・　友達とかかわりがもてるようになる。 ・　かかわり方の幅を広げる。
短期目標（１年後）	・　園生活に必要な簡単なルールを守って友達と遊ぶことができる。 ・　自分から友達を遊びに誘うことができる。

次年度への引継

・　新年度，年長組になったことを意識付けるような言葉掛けをしたり，園内の縦割りグループの活動で，リーダーさんになったりすることを通して，意欲的に活動する様子が見られた。頑張ったことをみんなに紹介するなどして満足感を味わわせるようにした。

支援機関	機関名：県総合教育センター 支援者：○○先生
支援内容	・　保育参観を通して，指導方法等についてアドバイスする。
評価	・　本児が自分なりに行動し，その様子を待って言葉掛けするようにしたほうがよい。

支援機関	家庭 支援者：父，母，兄（小２）
支援内容	・　本人の意欲を大切にしながら，身の回りのことを自分でしたり，家族の中での役割をもたせて取り組んだりする。 ・　精神的に安定するよう家族との会話を大切にしたりスキンシップを多くとったりする。
評価	・　年長組になり，自分から着替えや登園の準備をする様子が見られるようになった。

支援機関	機関名：児童デイサービス○○園 支援者：○○先生
支援内容	・　週２回通園 ・　運動遊びや音楽活動を通じて，周囲とのかかわりをもちながら活動に参加する。
評価	・　先生や友達の名前を覚え，毎日楽しく活動に参加している。幼稚園であったことをうれしそうに話してくれる。

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

所属機関	○○○○幼稚園 担当者：担任○○　○○
支援内容	・　友達とのかかわりの中で，順番を守る，交替で使うなど，その場に適応できるよう問題解決の方法を一緒に探って体得する。 ・　給食の当番や教師の手伝いなど，自分に与えられた役割を最後までやり遂げる。
評価	・　笑っている表情や怒っている表情などの絵カードで友達の気持ちを示すと，じっと見て考えるような様子を見せるようになった。

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

③　移行支援シート作成例：幼稚園・保育所等から小学校（通常の学級）へ就学する例

1　現在行っている主な支援の内容　〈幼稚園・保育所等 → 小学校・特別支援学校（小学部）〉

(1) 資料の観点例を参考に各項目について，支援度を記入してください。
◎：配慮・支援の必要はない。
○：何らかの配慮・支援があればできる。
△：多くの配慮・支援を要する。

(2) ○又は△の項目について，これまで行ってきた配慮や支援を具体的に記入してください。

項目		支援度	主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	◎	○　特に記入なし。
	② 見え	◎	
	③ 聞こえ	◎	
	④ 姿勢保持	◎	
	⑤ 移動	◎	
	⑥ 手指の動き	◎	
	⑦ その他（　　）	◎	
身辺処理・生活	① 食事	○	①　偏食の傾向があり，食べることに集中できないところがあるが，教師が近くに座り，言葉掛けすると落ち着いて食事に臨むことができ，苦手なものも少しずつ食べようとする。 ⑥　一日の流れや活動内容を絵カードで示し，説明することで，活動の切り替えがスムーズにできる。
	② 排せつ	◎	
	③ 衣服の着脱	○	
	④ 片付け	○	
	⑤ 用具の使用・活用	○	
	⑥ その他（スケジュールの理解や変更）	○	
社会性・行動	① 指示や話の内容理解	○	③⑦　絵カード等で視覚的に相手の気持ちを伝えると理解しやすい。また，教師が「お友達はどんな気持ちかな？」と言葉掛けすることで自分で考えられるようになってきている。 ⑥　上履きで外に出るなど決められたことを守ることができないとき，「×」を書いたカードを見せると，行動を調整する様子が見られる。
	② 意思の伝達	○	
	③ 人とのかかわり	○	
	④ 遊び	○	
	⑤ 集団行動	○	
	⑥ 決まりの理解や遂行	○	
	⑦ 感情のコントロール	○	
	⑧ 危険回避・危険予知	○	
	⑨ その他（　　）		
学習への準備	① 理解（上下・前後・左右など）	○	①　「おはしを持つ手だよ」と言葉掛けすれば，右手だということは理解できる。 ②　当番活動の中で友達の名前を読む機会を作ったり，郵便ごっこをしたりすることで，ずいぶん興味・関心が高まってきたようである。 ④　書くことへの興味も出てきている。「名前はどうだっけ？」と教師に求めてくるので，「縦」「横」など言葉掛けしながら教師が手を添えて書くようにしている。
	② 文字への興味・関心	○	
	③ 平仮名（自分の名前程度）の読み	◎	
	④ 平仮名（自分の名前程度）の書き	△	
	⑤ 数えることへの興味・関心	○	
	⑥ 描くことへの興味・関心	◎	
	⑦ その他（　　）		

項目			主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
興味・関心等	得意なこと 好きな遊び	・　粘土や砂場遊びなどイメージを形にすること ・　手伝いや当番活動	・　教師も一緒に遊び，イメージを共有できるようにした。 ・　達成できたときは，特に多くの言葉を掛け，ほめることを大切にした。
	苦手なこと 嫌いな活動	・　鉄棒やプール ・　集中して取り組むこと	・　鍵盤ハーモニカの練習等，長時間にならないように○分程度と決めて取り組む工夫をした。また，活動の前後に好きなことができる時間を十分とるようにした。

2　就学先の学校に伝えたい支援内容

(1)　就学後も継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※　これまで大事にしてきた指導内容・方法の工夫（環境や働き掛けの工夫，支援のこつ，情緒的に不安定になったときの対応など），これまでの指導で伸びてきたこと，これからも伸ばしてほしいこと，そのための手だてや配慮事項など

・　登園時に，一日の流れや活動内容などを絵カードで具体的に伝えたり，片付けの時間などを事前に伝えたりすることで，活動の切り替えがスムーズにいく。
・　イライラして席に着けなかったり，声を出したりなど情緒的に不安定なときは，静かな場所に移動し，落ち着いて話を聞くようにした。本人の思いをしっかり受け止め，「○○が嫌だったんだね」と肯定的な言葉で話すように配慮すると教師の話も聞き入れやすい。
・　友達とのトラブルの際には，周囲の気持ちを代弁したり，言葉での伝え方を教えたりしてきた。また，友達に本人のよい点を伝える機会を多くとったり，本人の苦手とする面を理解し手助けしてくれるように話をしたりすることで，周囲の受入にも変化がみられつつある。

(2)　就学後の学校生活に関する要望・期待など（保護者記入欄）

・　早く新しい先生や友達に慣れて，みんなと一緒に楽しく過ごせるようになってほしい。
・　連絡帳等を通して，家庭での様子を学校にできるだけ伝えたいと思っているので，学校での様子もぜひ教えてほしい。家庭でも励ましたり，同じような取組をしたりして一緒に取り組んでいきたい。

このシートの内容を就学先や関係する支援機関と共有することに同意します。
平成○○年　○月　○日

名前（保護者）　　○○　○○

①　小学校の個別の指導計画作成例

※　学校で記入してください。また，各学校で独自に作成している個別の指導計画がありましたら，綴じ込んでください。

支援の期間　○○年　○○月　○○日　　～　　○○年　○○月　○○日　　記入者　○○　○○

学校名（連絡先）	○○小学校	学年・組	５年○組	氏　名	○○　○○	担任名	○○　○○

本人・保護者の願い	・　本人は，学習内容が少しでも分かるようになりたいと思っている。保護者も基礎学力が定着すれば，学習に興味がもてるのではないかと期待している。 ・　たくさんの人と，積極的にかかわれるようになってほしい。	担任の願い	・　成功体験を少しずつ重ねながら，学習に意欲的に取り組めるようになってほしい。 ・　自分の気持ちをしっかりと相手に伝えられるようになってほしい。
長期目標	（１年後） ・　道具を使う作業では，見通しをもちながら取り組もうと努力することができる。　・　集団の中で，自ら進んで読んだり発表したりできる。		

項目		状態像	短期目標（学期ごと）	支援・指導の内容・具体的な手立て	評価	本人の変容・評価
健康・身体機能面	①健康面に関する配慮 ②視覚　③聴覚 ④姿勢保持　⑤移動 ⑥手指の動き⑦その他	①　梅雨の時期や季節の変わり目など，気候の変化により喘息の発作を起こすことがある。	【１学期】 ①　体調が悪くなったら，すぐに担任か周りの人に伝えることができる。	①　朝の健康観察時には，顔色など入念にチェックする。また，保護者との連絡を密にとる。	○	①　服薬は自主的にできる。昼休み時間，軽い発作が出ているにもかかわらず，みんなとドッジボールをしようとすることがあった。
身辺処理・生活面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥役割　⑦金銭 ⑧その他	⑤　手先が不器用で，学習用具をうまく使いこなせないことがある。 ⑧　作業の手順が分からず，掃除時間中にぼんやりしていることがよくある。	【１学期】 ⑤　はさみを使い，線に沿って切ることができる。	⑤　作業の見通しをもてるように，見本を提示する。 ⑤　曲線など，本人が難しいと感じる部分は補助する。	○	⑤　上手にできたところをほめられたり，そうでなかった部分も味わい深い作品になることに気付いたりすることで，意欲的に取り組む場面が見られた。
社会性・行動面	①指示や話の内容理解 ②意思の伝達 ③集団行動・遊び ④決まりの理解や遂行 ⑤人とのかかわり ⑥感情のコントロール ⑦危険回避・危険予知 ⑧その他	②　１対１の場面では，昨日の出来事などをよく話すが，集団の前では，緊張のため言葉が出なくなる。 ⑤　校外学習の事前学習では，いろいろな活動に興味を示すが，実際の活動になると消極的になってしまう。	【１学期】 ②　帰りの会の一日の出来事を発表する時間では，みんなの前で原稿を読みながら発表することができる。	②　自分の言いたいことを思いつくままに付箋に書かせた後，話を順序よく並べたり，言葉を付け足したりして発表原稿を作成する。	△	②　原稿を読みながら発表したが，原稿を読む練習が十分でないときは，発表に時間がかかった。原稿の量を減らすと小さい声ではあるが発表できた。
学習面	①聞くこと ②話すこと ③読むこと ④書くこと ⑤計算すること ⑥推論すること ⑦描くこと ⑧その他	③　図鑑や歴史漫画をよく読んでいるが，音読が苦手である。 ⑥　かけ算やわり算の筆算など，計算問題は意欲的に取り組むが，文章題になると手をつけないことがよくある。 ⑧　ボール運動などを好むが，表現運動は動作を覚えられず，苦手意識をもっている。	【１学期】 ③　音読では，読み誤りを減らすことができる。 ⑥　文章題は，具体物や半具体物を操作したり，文章を絵や図に表したりすることで，文の内容を理解しながら解くことができる。	③　文章を単語や文節ごとに線で区切る。 ③　読もうとする行だけが見えるような補助シートを準備する。 ⑥　内容をイメージできるようなヒントカードや，絵や図が書けるメモ帳などを準備する。	○ ○	③　同じ文章の音読を何回も練習することで暗記し，ゆっくりと読めるようになってきている。読む量を少しずつ増やしていきたい。 ⑥　簡単な文章題は，図に表すことで少しずつ解けるようになってきている。

今後に向けて（引継事項）		保護者記入欄（支援終了時感想）	

※　評価は，十分達成した◎　　達成した○　　努力が必要△

②　小学校の個別の教育支援計画作成例　※　支援機関が多い場合は，複数ページ使って作成してください。

児童氏名	○○ ○○	学　年	小学５年
保護者氏名	○○ ○○	担任氏名	○○ ○○
記入者氏名	○○ ○○		

将来に向けての願い・現在の生活の願い	
本　人	・ 学習内容が少しでも分かるようになりたい。 ・ 自分の得意なサッカーを続けたい。
保護者	・ 基礎学力を少しでも多く身に付けてほしい。 ・ 多くの人と積極的にかかわれるようになってほしい。
支　援　目　標	
長期目標（３年後）	・ 基礎学力の定着を図る。 ・ 自分の気持ちを他人に伝えることができるようになる。
短期目標（１年後）	・ 集団の中で，進んで読んだり発表したりすることができる。

次年度への引継

・　理科や社会など，興味のある内容の学習には積極的に取り組み，成果も現れてきている。しかし，算数の文章題や応用問題になると，集中力は持続しない。苦手な教科においては，学習内容の焦点化も考えていかなければならないのではないだろうか。
・　母親が，「子どものよさを発見し，ほめる。」ことを心掛けることで，家庭では落ち着いて生活できるようになってきているようである。

支援機関	機関名：○○特別支援学校（TEL：○○○） 支援者：○○巡回相談員
支援内容	・　授業中や休み時間の様子を参観し，具体的支援についてアドバイスや資料提供を行う。
評価	・　「がんばりカード」の見本を作成し，担任に提供した。頑張った成果が，「がんばりカード」にシールを貼ることにより視覚的に分かるので，意欲をもち取り組むようになってきている。

支援機関	家庭 支援者：父，母，弟（小４），妹（小２）
支援内容	・　家庭学習では，時間や内容，量などを本人に決めさせ，めあてをもって取り組めるようにする。 ・　今日の出来事などを順序立てて話せるような時間を確保する。
評価	・　家庭学習は取り組みにむらがある。できたときはほめ，できなかったときは，次にがんばれるような励ましをした。

支援機関	機関名：○○○学習塾（TEL○○○） 支援者：○○　○○先生
支援内容	・　目標は無理なく達成できるようなものにし，達成できたら賞賛するようにしている。 ・　やる気を維持できるような課題を設定する。
評価	・　特に，苦手な教科の学習時に手遊びが多くなる。得意な分野の問題を解くことで，少しずつではあるが意欲をもって取り組む時間が長くなってきている。

支援機関	機関名：県総合教育センター 支援者：○○研究主事
支援内容	保護者との教育相談や学校から得た情報，子どもの様子観察等をもとに，家庭や学校での対応の仕方について指導・助言を行う。
評価	・　母子共に来所。母親との教育相談では，子どものよさを見つけて，ほめる機会を増やすなどのアドバイスをした。母親は，「今日からの実践」として，前向きに考えているようだった。

所属機関	○○市立○○小学校５年○組 担当者：担任　○○　○○
支援内容	【担任支援】 ・　授業中に話すときは，時々近くに寄って話す。個別学習の時間に授業内容が理解できているかを確認する。 ・　宿題は保護者や本人と相談し，量や内容を調整する。 【専科支援】音楽担当者：○○，理科担当者：○○ ・　音楽：リコーダーの吹き方を中心に個別指導を行う。 ・　理科：実験ではグループ活動がしっかりできるかを見届ける。 【特別支援教育支援員による支援】支援員：○○ ・　家庭科のミシン，図工の電気糸のこぎりなど，学習時の安全に配慮する。
評価	・　話し合い活動では，リーダーシップがとれる子どもを意図的にグループの中に置くことで，楽しそうに話し合いに参加する姿が見られた。

支援機関	機関名：○○○スポーツ少年団 支援者：○○○監督，○○○コーチ
支援内容	・　指導者全員が子どもの特性について共通理解を図り，積極的にチームにかかわれるように配慮する。
評価	・　練習中に，指示が通らないことがある。指示の内容が理解できていないと思ったら，個別に分かりやすく説明するようにした。

支援機関	機関名： 支援者：
評価	

支援機関	機関名：○○病院（TEL：○○○） 支援者：○○医師
評価	・　喘息発作時の薬の処方や発作時の対応など，アドバイス通りに実施できている。

③　移行支援シート作成例：小学校（通常の学級）から中学校（通常の学級）へ就学する例

1　現在行っている主な支援の内容　〈小学校・特別支援学校（小学部）→ 中学校・特別支援学校（中学部）〉

(1) 資料の観点例を参考に各項目について，支援度を記入してください。

◎：配慮・支援の必要はない。
○：何らかの配慮・支援があればできる。
△：多くの配慮・支援を要する。

(2) ○又は△の項目について，これまで行ってきた配慮や支援を具体的に記入してください。

項　目		支援度	主に小学校で行ってきた配慮・支援
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	○	① 梅雨の時期や夏から秋の季節の変わり目に喘息の発作を起こすことがある。発作が起こったときは常備している携帯用の吸入器を使用し，家庭にすぐ連絡するようにしていた。
	② 視覚	◎	
	③ 聴覚	◎	
	④ 姿勢保持	◎	
	⑤ 移動	◎	
	⑥ 手指の動き	○	
	⑦ その他（　　）		
身辺処理・生活	① 食事	◎	⑤ 手先が不器用で，学習用具をうまく使いこなせないことがある。定規はしっかり押さえられるように幅の広い物を準備したり，コンパスを使うときにはノートの下に厚紙を敷いたりするなどした。 ⑥ 掃除時間中にぼんやりしていることがある。掃除場所と作業の手順を示した表を掃除棚の近くにはり，事前に確認するように言葉掛けをすると見通しをもって活動できる。
	② 排せつ	◎	
	③ 衣服の着脱	◎	
	④ 片付け	○	
	⑤ 用具の活用	○	
	⑥ 役割（手伝い，係活動など）	○	
	⑦ 金銭	○	
	⑧ その他（　　）		
社会性・行動	① 指示や話の内容理解	○	② みんなの前で話をするときは，前日に内容を考え事前に練習することで，みんなの前で堂々と発表することができた。 ⑤ 校外学習や施設訪問では，あいさつの仕方や正しい言葉の使い方について事前に練習しておくと落ち着いて参加することができる。
	② 意思の伝達	○	
	③ 集団行動・遊び	◎	
	④ 決まりの理解や遂行	◎	
	⑤ 人とのかかわり	○	
	⑥ 感情のコントロール	◎	
	⑦ 危険回避・危険予知	◎	
	⑧ その他（　　）		
学習	① 聞くこと	○	③ 教科書を読むときは，補助シートを使い，読もうとする行だけを見えるようにすることで読みやすくなる。 ※補助シート…厚紙に一行だけが見えるように切り込みを入れた物 ⑥ 計算はできるが，文章題を苦手にしている。問題を声に出して読んだ後，図や絵を使い文章の意味を確認するようにした。 ⑧ 運動会の表現の練習は，全体練習の前に事前に教師と２人で練習したり，練習の様子をビデオに撮り，家庭でも練習してもらったりすることで意欲をもって取り組むことができた。
	② 話すこと	○	
	③ 読むこと	○	
	④ 書くこと	○	
	⑤ 計算すること	◎	
	⑥ 推論すること	○	
	⑦ 描くこと	○	
	⑧ その他（表現運動）	○	

項　目			主に小学校で行ってきた配慮・支援
興味・関心等	得意なこと 好きな活動	・　サッカーや野球などの球技	・　体育では，苦手な子どもにアドバイスをする役を任せるなど，活躍の場を設けるようにした。
	苦手なこと 嫌いな活動	・　図画工作（特に絵をかくこと）	・　構想を立てる段階で，どんな作品にしたいかを一緒に考えたり，作品作りの手順をできるだけ細かく示したりした。

2　就学先の学校に伝えたい支援内容

(1)　就学後も継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※　これまで大事にしてきた指導内容・方法の工夫（環境や働き掛けの工夫，支援のこつ，情緒的に不安定になったときの対応など），これまでの指導で伸びてきたこと，これからも伸ばしてほしいこと，そのための手だてや配慮事項など

・　話すことに苦手意識があり，自分から友達に話し掛けることは少ないが，体を動かすことが大好きなので，昼休み時間は，友達と一緒にドッジボールをしたり，ハンドベースボールをしたりして遊んでいる。これからも，得意なことを生かして友達の輪を広げていってほしい。
・　授業中，ぼんやりしていることがよくある。座席を前にして，集中できる環境をつくるようにした。また，指示が理解できていない場合もあるので，全体に指示を出した後，個別に分かりやすい言葉で話すように心掛けていた。

(2)　就学後の学校生活に関する要望・期待など（本人・保護者記入欄）

・　スポーツが好きで，サッカー部に入りたいという話をよくする。部活動を通してたくさんの人とかかわってほしい。
・　学習に対する意欲が低く，家でも宿題に取り組むまでに時間がかかる。「できるようになった」という喜びを味わえるように頑張ってほしい。
・　基礎学力が身に付いていないようなので，下学年（○年生）の内容を復習する時間があると，意欲の向上にもつながると思う。

このシートの内容を就学先や関係する支援機関と共有することに同意します。

平成○○年　○月　○日

名前（本人・保護者）　○○　○○

①　中学校の個別の指導計画作成例

※　学校で記入してください。また，各学校で独自に作成している個別の指導計画がありましたら，綴じ込んでください。

支援の期間　○○年　○○月　○○日　～　　○○年　○○月　○○日　　記入者　○○　○○

学校名（連絡先）	○○中学校	学年・組	３年○組	氏　名	○○　○○	担任名	○○　○○

本人・保護者の願い	たくさんの経験を通して一つ一つのことを学んでほしい。そしてそのことを通して，自信を得て周りの人々とよいかかわりがもてるようになってくれればよいと思っている。	担任の願い	学級の仲間達と切磋琢磨しながら，コミュニケーションスキルを高め，社会性を身に付けていってほしい。自分の希望する進路を実現させてほしい。

長期目標	（１年後）・　自分の思いや考えを他の人に言葉で伝えることができる。　・　学級の仲間と協力して，いろいろな活動に参加することができる。 ・　進路について考え，実現に向けて努力する。

項　目		状　態　像	短期目標（学期ごと）	支援・指導の内容・具体的な手立て	評価	本人の変容・評価
身辺処理・生活面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥役割　⑦金銭 ⑧その他	④　机の中や棚が乱雑になりやすい。 ⑤　協応動作が難しい。	【１学期】 ④　机の中とカバン棚を定期的に点検し，整った状態を維持する。 ⑤　特に音楽科におけるギターの学習に意欲的に取り組む。	④　プリント類は分類し，ファイルに綴じさせる。棚はブックエンド等で仕切りを作り，置く場所を決める。 ⑤　ギターの学習では，課題をスモールステップにし，クリア段階を明示する。	○ ○	④　教師の言葉掛けがあれば片付けられる。プリントの分類は教師と一緒に行った。 ⑤　ギターの学習は，クリア段階がはっきり分かると練習に取り組めた。
社会性・行動面	①指示や話の内容理解 ②意思の伝達 ③集団行動・遊び ④決まりの理解や遂行 ⑤人とのかかわり ⑥感情のコントロール ⑦危険回避・危険予知 ⑧その他	①　会話の中で抽象的な言葉やあいまいな表現は伝わりにくい。 ⑥　感情が高揚したり，予定外のことが起こるとパニックになることがある。	【１学期】 ①　友人間の会話で相手の表情や気持ちを考えることができる。 ⑥　予定が変更になっても流れにのって行動できる。	①　職員や支援員，生徒が言動の意図について補足説明を行う。生徒にも「～してもらうとうれしい」など分かりやすい表現で接してもらう。 ⑥　予定が変更になるときには事前にメモにして渡す。	△ ○	①　他者との会話の中で少しずつ相手の様子を見たり言い方を考えたりする場面が増えた。 ⑥　メモを確認することで見通しをもち，落ち着いて行動できた。
学習面	①聞くこと ②話すこと ③読むこと ④書くこと ⑤計算すること ⑥推論すること ⑦描くこと ⑧その他	①　集中して聞くことが苦手で聞き漏らしがある。 ②　内容を順序立てて話すことが苦手である。 ⑧　進路について漠然としていて，まだ希望が定まっていない。	【１学期】 ①　話す相手を見て内容を集中して聞く。 ②　特に国語科のスピーチや作文の学習においては５Ｗ１Ｈカードなどを活用する。 ⑧　いろいろな進路先について知る。	①　指示する際は「これから～について説明します。～つ話します。」など本人の注意をひいてから行う。 ②　５Ｗ１Ｈカードを活用して会話のやりとりをしたり日記を書かせたりする。 ⑧　インターネットやパンフレットを活用する。高校の一日体験入学等への参加を促す。	△ △ ○	①　注意を向けることができれば聞くこともできる。 ②　５Ｗ１Ｈカードの活用が進み，話の内容が混乱しなくなってきた。 ⑧　積極的に高校について調べたり複数校の体験入学を希望し，参加したりしている。

今後に向けて（引継事項）		保護者記入欄（支援終了時感想）	

※　評価は，十分達成した◎　　達成した○　　努力が必要△

②　中学校の個別の教育支援計画作成例　※　支援機関が多い場合は，複数ページ使って作成してください。

生徒氏名	○○ ○○	学　年	中学３年
保護者氏名	○○ ○○	担任氏名	○○○○
記入者氏名	○○ ○○		

将来に向けての願い・現在の生活の願い	
本　人	友達と一緒にたくさんのことを体験し，できることを増やしていきたい。
保護者	学校生活で多くの体験を通して一つ一つのことを学ばせ，自信をつけさせたい。
支　援　目　標	
長期目標（３年後）	コミュニケーション能力を高め，社会性を身に付ける。
短期目標（１年後）	自分の思いや考えを相手に言葉で伝えることができる。進路について考え，実現に向けて努力する。

次年度への引継

本人の疑問や質問に対して丁寧に答えることで落ち着いた学校生活を送っている。生徒間では言い過ぎたりストレート過ぎたりする表現もあるが，周りの生徒たちの理解もあり，コミュニケーションがとれつつある。
家庭では会話も増えて，話す内容も豊富になってきた。
今後も本人との丁寧なかかわりを継続していきたい。

支援機関	機関名：県児童総合相談センター 支援者：○○先生
支援内容	本人の状況の把握と周りの人のかかわり方についての助言を行う。
評価	定期的（半年に１回）に親子の教育相談を行った。本人の状況に応じた対応の仕方についてのアドバイスを，両親や関係者（教員等）が生かすことでコミュニケーションスキルが向上しつつある。

支援機関	家庭 支援者：父，母，弟（中１）
支援内容	話したい欲求をとらえながら，よく話を聞いてあげる。意図をくみ取りながら，言葉を言い換えたり教えたりしてコミュニケーションを多くとる。進路実現に向けて努力できるように励ます。
評価	話す時間の確保に努力した。家庭学習の援助と見届けを行った。できるようになったことは認め，言葉でほめて自信をもたせることで進路に対するストレスが緩和された。

支援機関	機関名：○○特別支援学校 支援者：○○巡回相談員
支援内容	授業や休み時間の様子を参観し，本人の言動や周りの友達のかかわり方についての助言を行う。
評価	適切な言動についてその場その場で理解を促した。周りの生徒の言動の意図については，教員や支援員が補足説明をして本人に理解させる，等の助言を行ったことでかかわり方が少しずつ改善されてきた。

支援機関	機関名：○○中学校　○○部 支援者：部顧問　○○　○○
支援内容	体力作りや基礎練習，チームプレー等を通して心身を鍛え，仲間とのコミュニケーションがとれるようにする。 例：練習メニューが分かりやすいように，「部活ノート」を活用する。
評価	「部活ノート」を活用し，適切な課題の設定やそれをクリアするためのアドバイス等を行ったことで活動内容が明確になり継続して部活動に取り組めた。チームとしてのあり方については日々，部員全員の課題として意識させることでコミュニケーションも深まっていった。

所属機関	○○中学校３年○組 担当者：学級担任　○○　○○
支援内容	抽象的な言葉の理解は難しいので指示は具体的に行う。課題等は自信を失わせないようにスモールステップで達成感や自信をつけさせる。 【学級担任】５Ｗ１Ｈカード等を活用し，順序立てて話したり書いたりすることができるようにする。日記等を通して状況の把握に努め，家庭との連携を図る。 【教科担任】本人の疑問や質問には丁寧に答える。授業中の指示は注意を引きつけてから行う。机間指導では指示や内容が理解されているか，確認を行う。 【支援員】周りの生徒の言動の意図について補足説明を行ったり，他の生徒へ接し方の助言を行う。
評価	学級担任と教科担任，支援員と情報交換をしながら本人の特性を理解して，一致した対応を行った。 定期的な校内委員会で状況を把握し，各学期の始まりには全職員の共通理解を図った。そのことにより本人が安定した学校生活を送ることができた。

支援機関	機関名：○○学習塾（ＴＥＬ○○） 支援者：○○先生
支援内容	各教科においての基礎的・基本的な内容の定着を図るために基礎問題を繰り返し学習させる。
評価	つまずきの箇所については本人が理解できるように，図や分かりやすい言葉等を用いながら丁寧に説明を行ったことで理解が進み，解ける問題が増えた。

③　移行支援シート作成例：中学校（通常の学級）から高等学校へ進学する例

1　現在行っている主な支援の内容　〈中学校・特別支援学校（中学部）→ 高等学校・特別支援学校（高等部）〉

(1) 資料の観点例を参考に各項目について，支援度を記入してください。

◎：配慮・支援の必要はない。
○：何らかの配慮・支援があればできる。
△：多くの配慮・支援を要する。

(2) ○又は△の項目について，これまで行ってきた配慮や支援を具体的に記入してください。

項　目		支援度	主に中学校で行ってきた配慮・支援
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	◎	②　視力は左右共に０．１で眼鏡を使用している。席は最前列か教室中央列の前から２番目に固定した。プリント類は，必要に応じて拡大コピーして提示した。
	② 視覚	○	
	③ 聴覚	◎	
	④ 姿勢保持	◎	
	⑤ 移動	◎	
	⑥ 手指の動き	◎	
	⑦ その他（　　）		
身辺処理・生活	① 食事	◎	④　机の中やカバン棚が乱雑になりやすいので，教科ごとのファイルやブックエンドを使って区分けをした。 ⑤　協応動作が難しいので（特にリコーダー等）家庭と連携して練習を行ったり，課題を区切って取り組んだりするなど，スモールステップで指導した。
	② 排せつ	◎	
	③ 衣服の着脱	◎	
	④ 片付け	○	
	⑤ 用具の活用	○	
	⑥ 役割（手伝い，係活動など）	◎	
	⑦ 金銭	◎	
	⑧ その他（　　）		
社会性・行動	① 指示や話の内容理解	○	①　抽象的な言葉は伝わりにくいので，指示は具体的に行う。（「今日の授業で新しく習った５つの英単語を５回ずつ書いておいで」等） ⑥　感情が高揚したり，予定外のことが起こりパニックになったりしたときは，別室にて呼吸を整えて落ち着かせ，ゆっくり話を聞く。 　また，トラブル時や困ったときの対応について「お助けノート」に記しておく。
	② 意思の伝達	○	
	③ 集団行動・遊び	◎	
	④ 決まりの理解や遂行	◎	
	⑤ 人とのかかわり	○	
	⑥ 感情のコントロール	○	
	⑦ 危険回避・危険予知	◎	
	⑧ その他（　　）		
学習	① 聞くこと	○	①　集中して聞くことが苦手であり，一斉の指示を聞き漏らしやすいので，注意をそらさないように言葉掛けを多くする。 ②　内容を順序立てて話すことが苦手なので，５Ｗ１Ｈカードを使いながら話す事柄や順序を示す。
	② 話すこと	○	
	③ 読むこと	◎	
	④ 書くこと	○	
	⑤ 計算すること	◎	
	⑥ 推論すること	○	
	⑦ 描くこと	◎	
	⑧ その他（　　）		

項　目			主に中学校で行ってきた配慮・支援
興味・関心等	得意なこと 好きな活動	・　読書	・　司書と連携しながら，好きな本について話題にしてコミュニケーションを深めたり，機会をとらえて本人の表現を高める場にしたりした。
	苦手なこと 嫌いな活動	・　手先を動かすこと ・　書くこと	・　リコーダーの練習では，小節を区切って取り組んだり，教師が，他の楽器の演奏で練習に加わったりなど，スモールステップで楽しみながら練習を行った。

2　就学先の学校に伝えたい支援内容

(1)　就学後も継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※　これまで大事にしてきた指導内容・方法の工夫（環境や働き掛けの工夫，支援のこつ，情緒的に不安定になったときの対応など），これまでの指導で伸びてきたこと，これからも伸ばしてほしいこと，そのための手だてや配慮事項など

・　心優しく人なつっこい。あいさつも積極的で，声を掛けるとよく話をする。
・　常識と思われるようなことも一つ一つのことに対して丁寧に説明すると理解できる。
・　初めてのことや新出事項に対しては抵抗感を示し，なかなか取り組もうとしないので，サンプルを提示したり，最初の部分を一緒に行ったりして「できそうだ」という気持ちを本人に抱かせることが大切である。
・　本人の問いや疑問に対して温かく接することで，学校生活における安心感と意欲を育てられるように努めた。

(2)　就学後の学校生活に関する要望・期待など（本人・保護者記入欄）

・　全体への指示など理解できていない部分も多いので，具体的に指示してほしい。
・　何かトラブルが起こったら，その時その場で解決・納得させたい。
・　たくさんの経験をさせてその中から一つ一つ学んでいってほしい。そして，そのことが本人の自信につながれば幸いなことである。

このシートの内容を進学先や関係する支援機関と共有することに同意します。

平成〇〇年〇月〇日

名前（本人・(保護者)）　〇〇　〇〇

①　高等学校の個別の指導計画作成例

※　学校で記入してください。また，各学校で独自に作成している個別の指導計画がありましたら，綴じ込んでください。

支援の期間　○○年　○○月　○○日　　～　　○○年　○○月　○○日　　記入者　○○　○○

学校名（連絡先）	○○高等学校	学年・組	１年○組	氏　名	○○　○○	担任名	○○ ○○

本人・保護者の願い	・　友人をつくり，楽しい学校生活を送りたい。 ・　大好きな歴史について学び，大学進学を目指したい。 ・　自立していくためのコミュニケーション能力を高めてほしい。	担任の願い	得意な分野を伸ばしながら，自立していくためにコミュニケーション能力が高まることを期待したい。
長期目標	（１年後） ・　落ち着いた学校生活を送ることができる。　・　人の嫌がる言葉を使わない。		

項目		状態像	短期目標（学期ごと）	支援・指導の内容・具体的な手立て	評価	本人の変容・評価
健康・身体機能面	①健康面に関する配慮 ②視覚　③聴覚 ④姿勢保持　⑤移動 ⑥手指の動き⑦その他	①　内臓疾患があり，月１回通院している。学期始めや学校行事の前など環境の変化がストレスとなり症状が出やすい。	**【1学期】** ①　主治医と連絡を取りながら，体育の授業等に参加する。	①　体調が悪いときは，担任や養護教諭に伝えるように指導する。 ①　積極的に治療を受けるように，定期的に言葉掛けを行う。	◎	**【1学期】** ①　疾患や治療について，自分から質問してくることがあった。症状は現在落ち着いている。
身辺処理・生活面	①食事　②排せつ ③衣服の着脱④片付け ⑤用具の使用・活用 ⑥役割　⑦金銭 ⑧その他	⑧　下校時，活動の途中でも決まった電車に乗るために学校を飛び出すことがある。時間割の変更等，予定変更が苦手である。	**【1学期】** ⑧　学校で計画的に一日を過ごすようになる。	⑧　事前に担任や養護教諭が，時間割の変更や下校時刻の確認など言葉掛けを行う ⑧　行事予定など保護者と入念に情報交換を行って，家庭でスケジュールの確認をする。	○	**【1学期】** ⑧　時間割の変更等に対応できるようになり，下校時飛び出すことがなくなった。 ⑧　担任及び養護教諭の言葉掛けにより，落ち着きをみせた。
社会性・行動面	①指示や話の内容理解 ②意思の伝達 ③集団行動・遊び ④決まりの理解や遂行 ⑤人とのかかわり ⑥感情のコントロール ⑦危険回避・危険予知 ⑧その他	⑥　気持ちをそのまま言葉に出す面があり，友達とのトラブルになる。思い通りにいかないと泣き出したり，教室を飛び出したりする。 ⑧　歴史の本が好きで，集めてくる。	**【1学期】** ⑥　思い通りに行かないことが起こった場合は，教師に伝えて，保健室（一階）と図書館（二階）でクールダウンし，授業に帰ることができる。	⑥　自分の心身の状態を言葉で表現できることから，本人と十分に話し合って対応する。	○	**【1学期】** ⑥　パニックになる前に，所定の場所で冷静さを取り戻せるようになった。その後一緒に話し合うことで，原因を考えられるようになった。
学習面	①聞くこと ②話すこと ③読むこと ④書くこと ⑤計算すること ⑥推論すること ⑦描くこと ⑧その他	①④　授業を聞きながら板書を書き取る作業に時間がかかる。 ⑧　歴史に対して興味・関心が高く，周囲から「歴史博士」と呼ばれる。不得意教科と思い込んでいる教科への取組は極端に消極的である。	**【1学期】** ⑧　得意な教科は更に伸ばし，教師や友達と共通の話題にできる。	①　授業内容によっては，板書したものを渡すようにする。 ④　授業を進めるに当たって，書く時間がもてるように「消すよ」等の言葉掛けを行う。 ⑧　得意な教科の教科担任と会話の時間を設定したり，授業の中で，発問を多くしたりする。	○	**【1学期】** ⑧　教科担任と落ち着いて言葉を交わすようになった。 ⑧　不得意教科についても取り組めるように学習の手順を示すなどしたい。

今後に向けて（引継事項）		保護者記入欄（支援終了時感想）	

※　評価は，十分達成した◎　　達成した○　　努力が必要△

②　高等学校の個別の教育支援計画作成例　※　支援機関が多い場合は，複数ページ使って作成してください。

生　徒　氏　名	○○　○○	学　年	高校1年
保 護 者 氏 名	○○　○○	担任氏名	○○　○○
記 入 者 氏 名	○○　○○		

将来に向けての願い・現在の生活の願い	
本　人	高校で大好きな歴史について学び，卒業後は大学進学を目指したい。
保護者	自立していくためのコミュニケーション能力が高まることを期待したい。
支　援　目　標	
長期目標（３年後）	・　得意分野を伸ばしながら，コミュニケーション能力を高め，社会自立につなげる。
短期目標（１年後）	・　落ち着いた学校生活を送ることができる。 ・　人の嫌がる言葉を使わない。

次年度への引継
・　問題の事象が起こってから支援の体制をつくることが多かった。本人の状態像を事前に把握し，各関係者が連携を取り合って支援していく必要がある。

支援機関	機関名：○○病院 支援者：医師
支援内容	内科検診で発見された内臓疾患について，服薬治療と２週に１回の診察。
評価	

支援機関	家庭 支援者：母親
支援内容	・　実生活に役立つ力を身に付けられるよう手伝いや身の回りのことに取り組ませる。 ・　本人の話に耳を傾け，気持ちを受容する。 ・　学校の行事予定等を把握し，毎日のスケジュールの確認を本人と一緒に行う。
評価	・　手伝いは，やりたくない気持ちが先行し取り組みにくい。言葉掛けに工夫が必要。

支援機関	機関名：スポーツクラブ 支援者：○○指導員
支援内容	内臓疾患を抱えているので，健康状況を観察しながら，楽しく活動できるように指導する。
評価	

支援機関	機関名： 支援者：
支援内容	
評価	

所属機関	○○高等学校１年○組 担当者：学級担任　○○　○○
支援内容	【教科担任】 板書や授業の進め方等に工夫する。 【学級担任】 クラスメイトとのつながりを感じるように学級活動への参加を促す。また，保護者と入念に情報交換を行う。 【養護教諭】 学級担任と連携して，本人の健康状況の把握や健康相談を行う。
評価	・　得意教科は，本人の希望によって放課後の個別指導を行い，更に興味・関心が高まっている。

支援機関	機関名：ＪＲ○○駅 支援者：○○さん
支援内容	・　靴を履かずに裸足で乗車することがあるので，驚かさないように静かな言葉掛けをする。 ・　乗客とのトラブルは，学校に必ず知らせる。
評価	

③　移行支援シート作成例：高等学校から大学へ進学する例

将来の生活についての希望	
本人の希望：　大学で，大好きな歴史について学び，卒業後は自立したい。 **保護者の願い**：　本人の希望どおり進学の道を選んだ。人間関係づくりが苦手なので不安がある。大学を卒業させたい。 **学校側の願い**：　得意な分野を伸ばしながら，自立していくためにコミュニケーション能力が高まることを期待したい。	
これまでの支援内容及び今後，必要と思われる支援内容	
【健康・身体機能】 ・健康　・視覚 ・聴覚　・姿勢保持 ・移動　・手指の動き など	・　内臓疾患があり月１回通院している。学期始めや学校行事の前など環境の変化で症状が不安定になるので，主治医と連絡を取りながら対応した。
【身辺処理・生活】 ・食事　・排せつ ・衣服の着脱 ・片付け ・用具の使用 ・役割　・金銭　など	・　下校時，決めた時間の電車に遅れそうになると活動の途中でも学校を飛び出したり，興味のある本は落ちているものも拾い集めたりなどの行動が見られた。このように，一定のものや事象に対して「こだわり」感が強いので，事前に本人と話し，できる限り本人の気持ちを尊重しながら対応を一緒に考えるようにした。また，家庭での様子を把握するために，保護者と入念に情報交換を行った。
【社会性 ・ 行動】 ・言葉の意味理解 ・意思の伝達 ・集団行動 ・決まりの理解・遂行 ・人とのかかわり ・感情のコントロール ・危険回避・危険予知など	・　気持ちをそのまま言葉に出す面があるので，生徒ともトラブルが多かった。思いどおりにいかないと泣き出したり，その場から飛び出したりすることがあった。そうしたときでも，場所を変えると落ち着くことができた。 ・　音や光に対して過敏に反応するが，フード付きのジャケットを着用するなど予防する手だてを自分から工夫できるようになった。 ・　自分の心身の状態を言葉で表現できるので，本人と十分話をして対応していくようにしてきた。
【　学　業　】 ・聞く　・話す ・読む　・書く ・計算する　・推論する ・描く　など	・　特に歴史に対して興味・関心が高く，友達から「歴史博士」と呼ばれていた。 ・　授業を聞きながら板書を書き取る作業が苦手な面があり，授業を進める中で配慮するようにした。（例　書く時間がもてるように間を入れながら授業を進める，「消すよ」と教師が確認してから板書を消す，板書内容をプリントしたものを渡す　など）
【 そ の 他 】 ・興味・関心 ・余暇の利用　など	・　休日は，自宅近くのスポーツクラブに通っている。体を動かすことは大好きで，クラブに行くことを楽しみにしている。

学校から	人間関係づくりが円滑に行えるように，いつでも本校を訪問していいことを本人や保護者に伝えている。今後も，本校と大学担当者との情報交換を密にしながら見守っていきたい。
本人・保護者から	人を傷つけてしまうような言葉を使ってしまうので，そのことに気を付けるように何度も話してきた。周囲の人にとけ込んでいけるような力を身に付けてほしい。

このシートの内容を進学先や関係する支援機関と共有することに同意します。

平成○○年　○月　○日

名前（本人・保護者）　○○　○○，□□　□□